

## 28P-am03

薬剤師生涯教育における e-ラーニング活用の国際動向

○塚本 由弥子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>熊本大社会文化学研究科)

【目的】薬剤師認定制度において単位認定を認められている e-ラーニングは、多忙な薬剤師の自己研鑽に欠かせないものとなる。しかしながら、学習成果の評価基準や品質についてはそれぞれのプロバイダーに委ねられている現状にある。より効果的な e-ラーニングを提供することを目指し、生涯学習制度における e-ラーニング活用の国際動向を調査・考察。

【方法】Pubmed を利用し、pharmacist、e-learning の他、lifelong education、continuing professional development(CPD)等のキーワードを組み合わせ、過去5年間の文献を検索調査。e-ラーニングの効果および品質に関する研究を実施する国の薬剤師会ホームページ等から e-ラーニングの提供状況を調査。【結果】継続教育(CE)提供のツールおよび薬剤師個人の責任により行う continuing professional development(CPD)のツールとして、米・豪などでは教育工学に基づきシステムティックに行動変容を促す e-ラーニングを開発提供。多くはインタラクティブ性を重視したコンピテンシーに基づくコース学習となり、そのコースを導入する国もある。品質保証はなされているが、主観による評価にバイアスを含み、今後の課題と指摘するメタ解析も見られる。【考察】FIP Global Report(2002)で定義される薬剤師 CPD の自己学習ツールとして e-ラーニングの有用性が実証されるも評価方法等に課題は残り、先行事例を基に検討が必要。